CapeOX+Bev

対象	進行・再発大腸がん
----	-----------

投与順	抗癌剤名	投与量	手技	投与時間·速度	投与日(d1,d8等)
1	ベバシズマブ	7.5mg/kg	DIV	90min→60min→30min	d1
2	オキサリプラチン	130mg/m2	DIV	2H	d1
3	カペシタビン	2000mg/m2/日 (コメント欄参照)	経口	分2	d1夕~d15朝

1コース期間	3週間					
総コース数	PD					
投与開始基準	・好中球≥1200 ・PLT≥7.5万 ・T-Bil≤2.0 ・AST、ALT≤100(肝転移:≤200) ・クレアチニン≤1.5					
減量規定•中止基準	Grade3以上の副作用(CTCAE): WBC < 2000、好中球 < 1000、PLT < 5万、 血清ビリルビン>施設上限値(1.2)の3倍 AST・ALT > 施設上限値(AST:33、ALT:男性⇒42、女性⇒27)の5倍 その他(悪心、食欲不振、神経障害などの非血液毒性)がGrade3以上 ベバシズマブ: 創傷治療遅延、静脈血栓塞栓症、可逆性後白室脳症→治療まで休薬 Grade2,3のネフローゼ症候群→Grade1まで休薬 L-OHP:130mg/m2⇒100mg/m2⇒85mg/m2 Bmab:7.5mg/kg⇒5mg/kg 消化管穿孔、動脈血栓塞栓症、高血圧脳症、クリーゼ、重度の出血、G4のネフローゼで中止再投与不可尿蛋白1+となったらUTP/Ucre:1.0gを超えたら腎透析内科ヘコンサルトを検討 ゼローダ投与量 「ゼローダ減量時投与量」 減量1段階 減量2段階 体表面積 1回量 1.41m2未満 900mg 1.36m2以上1.66m2未満 1500mg 1.51m2以上1.81m2未満 1200mg 1.36m2以上1.66m2未満 1800mg 1.81m2以上2.11 900mg 1.96m2以上1 2100mg 2.11m2以上 1500mg 1500mg 1500mg 1200mg 1500mg 1200mg 1500mg 1200mg 1500mg 1200mg 1500mg 1200mg 1500mg 1200mg 1500mg 1200mg					
2コース目以降の投与開始基準	PS: 0-2 Grade3以上の副作用がない: 白血球:2000/mm3以上 好中球:1000/mm3以上 血小板:5万/mm3以上 エートル:5万/mm3以上 AST/ALT:施設上限値の5倍以下 T-Bil:施設上限値の3倍以下 その他(悪心、食欲不振、神経障害などの非血液毒性)がGrade3未満					
コース間での休薬の規定	投与開始基準を満たしていること					
投与量の増量規定	なし					
注意すべき副作用	べき副作用 Grade3以上の副作用 下痢(20.2%) 手足症候群(6.1%) 好中球減少(6.9%) など					

CapeOX + Bev

1コース期間 21日間

投与所要時間 4時間→3時間30分→3時間

ルート	Rp	薬剤名		標準投与量	投与方法	投与時間	day1	day8	day15
主管	1	カイトリルバッグ デカドロン ★イメンドカプセル125mg	100mL 3.3mg 内服		div	15min	0		
	2	生食 アバスチン	100mL(250mL) []mg	7.5 mg/kg	div	90min→60min →30min	0		
		5%ブドウ糖 オキサリプラチン デカドロン	250mL []mg 3.3mg	130 mg/m2	div	2hr	0		
	4	生食	50mL		div	15min	0		
内服薬		ゼローダ		2000mg/m2/日 (コメント欄参照)	経口	1日2回 朝·夕食後	d	lay1夕~day15草	明

コメント

•アバスチンの者	・釈液:初回は生食2	250ml 2回日じ	J除牛食100ml
こうハヘランのカ	1が収がり出る工長を		71世上及10011に

- ・イメンドカプセル:day1⇒125mg 1cap内服、day2・3⇒80mg 1cp 内服
- ・嘔気コントロール不良時は、カイトリル⇒アロキシへの変更を考慮。
- *初回投与時、保湿剤ヒルドイドクリーム処方。

症状に応じてステロイド外用薬(リンデロンV軟膏®)の処方を検討。

ゼローダ投与量

上 体表面積	1回量
1.36m2未満	1, 200mg
1.36m2以上1.66m2未満	1, 500mg
1.66m2以上1.96未満1.96未満	1,800mg
1.96m2LL F	21.00mg

Reference:	